２０２５年８月２９日

小山田小

町田市立小山田小学校
校　長　　悴田　隆良
令和７年度学校だより　第５号
http//www.machida-tky.jp/e-oyamada/

あつかった　２０２５夏

校長　　悴田　隆良

夏休みが終わり、２ 学期が始まりますが、まだまだ残暑が厳しい毎日になりそうです。熱中症対策を引き続き行いながら、学校生活を過ごしていきます。生活リズムがもどっていない子供たちもいますので、ご家庭でも食事や睡眠などに注意を払っていただきますようにお願いいたします。

さて、今年の夏はとても“あつい”夏でした。連日、ニュースに取り上げられた猛暑に関する“暑い”は、大きくはいろいろな環境問題につながり、動植物の生態にも影響が出てきているそうです。私が聞いた話の一つに「このような暑さが数年続くとセミの鳴き声が市街地では聞こえなくなり、セミは標高が高い場所でしか見ることができない生き物になるのではないか」という話題がありました。セミの鳴き声は私には夏の代名詞であり、いろいろな思い出にリンクするものだったので、ちょっとした衝撃でした。ほかにも、昼間は暑すぎて子供たちが外に遊びに行くことができなかったり、農業にも大きな打撃が出て物価の高騰に反映していたりしています。様々な面から私たちのこれまでの生活スタイルを変えざるを得ないほどの“暑い”問題になっていました。

また、今年の夏は“熱い”出来事もありました。甲子園での高校野球大会です。西東京代表として地元の日大三高が出場。東東京代表の関東第一高との東京都対決を制して、県立岐阜商業との準決勝。テレビで見る限りは相手への応援が多く、アウェー感がありました。しかし試合後の日大三高の投手の談話では、「相手の応援は自分の声援」と考え、相手校の応援歌を口ずさみながら笑顔でマウンドに立っていたというのです。彼は「ピンチでも自分が笑顔でいればチームも乗っていけるので、意図的に笑顔でいる」と語り、実は試合の前日に宿舎で相手校の応援歌を聞いて、笑顔でいるための準備をしていたそうです。その試合にも勝って、ついに決勝戦。この試合も相手の沖縄県代表の高校への応援が大きいように感じましたが、そのような中で選手は懸命にプレーし、“熱い”勝負を見せてくれました。結果は準優勝でしたが、試合後には日大三高の選手、監督の立ち振る舞いに多くの称賛が上がりました。

2025 年の夏の終わりに“あつい”をキーワードに書きました。子供たちには“暑い”生活における判断力や行動力を身に付けてほしいと思います。そして、自分の目標や夢に“熱い”気持ちをもって、前を向いて歩んでほしいと思います。